

絵を見て、まちがいを10カ所
見つけてね。
正解者のうち、抽選で5人に
図書カードをプレゼント
します。



応募方法

はがきまたはファクスに①答え
(どちらかの絵に○をつける)②住
所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話
番号⑥広報紙の感想、意見など
を書いて秘書広報課(〒443-8601
FAX 66-1192)へ。当選者と答え
は、広報がまごおり7月号に掲載
します。

締切 5月13日金

3月号当選者

鳥居 誠吾(竹谷町)

平田 征也(本町)

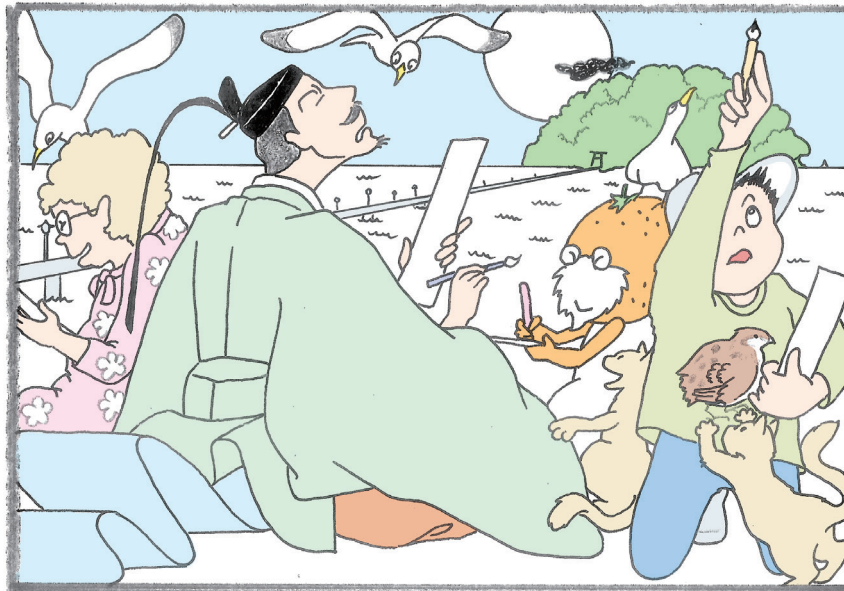
平野 直子(三谷町)

宮瀬 洋子(豊岡町)

渡辺めぐみ(形原町)

(50音順・敬称略)

画:とうふねこ座
市川雅子



3月号の答え

俊成と描く短歌

遠く離れた誰かに思いを伝えるとき、
皆さんはどのように伝えますか? 現代で
は、電話やメール、SNSですぐに伝え
ることができますね。

通信手段が少ない今より古い時代に
は、思いを五・七・五・七・七音にのせ
て送る短歌の風習がありました。蒲郡開
発の祖とされる藤原俊成卿も、多くの短
歌を残した偉人です。

ゆうされば のべのあきかぜ みにしみて
うづらなくなり ふかくさのさと

伴侶を思つて鳴く鶉の姿と、秋風の冷た
さを身に迫る寂しさと重ね合わせたこの句
は、俊成自信作と言われているようです。
頭の中に情景が浮かんできませんか?

さあ、今年も俊成を顕彰する蒲郡俊成
短歌大会が始まるようです。

みかん仙人「私も参加するぞよ。のう、
俊成さん」

みかん仙人が呼びかけると俊成も現れ、
それぞれの心を詠みます。春の竹島から、
風流な声が聞こえてくるようですね。